

ひまわり通信

令和2年 1月号

★1月のグルメティー★

ぶり解体ショー

日	月	火	水	木	金	土
			1日 休み	2日 休み	3日 休み	4日 フラレインボートランプ 体操
5日 休み	6日 詩吟・将棋 ゲーム	7日 トランプ ゲーム	8日 手芸クラブ 体操	9日 トランプ・将棋 カラオケ	10日 書道教室 ゲーム グルメティー	11日 トランプ ゲーム
12日 休み	13日 詩吟・将棋 カラオケ	14日 トランプ 体操	15日 手芸クラブ ゲーム	16日 トランプ・将棋 ゲーム	17日 書道教室 体操	18日 トランプ カラオケ
19日 休み	20日 詩吟・将棋 ゲーム	21日 トランプ ゲーム	22日 手芸クラブ 新年会	23日 トランプ・将棋 体操	24日 書道教室 ゲーム	25日 トランプ ゲーム
26日 休み	27日 フランステル 詩吟・将棋 体操	28日 トランプ カラオケ	29日 手芸クラブ ゲーム	30日 トランプ・将棋 ゲーム	31日 書道教室 体操	

はじめに

皆さんこんにちは！職員の「小濱」です。私がひまわりに入職し1年半が経ちました。今月は、ひまわりで働き始めて、「小濱の介護の仕事に対する意識」の変化をお話していきたいと思います。

これが同じ介護の仕事か！？(ﾟдﾟ)！

ひまわりに入るまで、私は有料老人ホームに6年勤めていました。有料老人ホームという施設では、ベッドから車いすへの移乗、おむつ交換、食事介助など、身体的な介護を中心に、痰吸引などの一部医療行為も学び実践してきました。そこでは、ワンフロア21名の入所者に対し、日中3名、夜間1名の職員が24時間交代しながら関わっていました。その為、ご利用者へのケアに差が出ないよう、一日の流れもマニュアル化されており、マニュアルをきっちりこなすことが介護の仕事だと思っていた。職場では、7名の介護職員の中でリーダーという立場であり、自分自身、他職員の見本になるだけの自信も持っていました。慣れた職場ではありましたが、職員不足による休日出勤や長時間の残業が続き、「このままでは身体が壊れる」と思い、退職を決断し、ひまわりに入職してきました。

介護職員としての経験と自信をもってひまわりに入ってきましたが、「これが同じ介護の仕事か」と全く違う世界が待っていました。一番私が驚いたのは「考える」ことの多さです。送迎、入浴、介助などの日常業務に加えて、ご利用者から様々な要望や相談をされます。それらをタイムリーに柔軟に対応する必要があり、私は対応を「考える」ことがとても苦手でした。これまでマニュアルに頼り「考える」ことをほとんどしてこなかった私にとって、身体的な負担は軽くても、精神的な負担を強く感じるようになりました。その為入った当初は、この現実となかなか向き合えず「体を動かしている間は考えなくてすむ」と思い、「自分が行きます！」と率先して介助に入るようにしていました。

ターニングポイント

入職して1年が経った頃に、自分の考えを大きく変える出来事がありました。

90代の女性ご利用者が、ひまわりで初めて下着を汚された時のことです。その場に居合わせた私は、新しい下着に着替えてもらい、汚れた下着はビニール袋に入れてご利用者のカバンに入れたのです。私はすでに作業を終えたものとして、それ以降は意識から消えていました。帰宅された際、ご家族から「この汚れた下着はどうしたのか？」と言われ、送った職員はわからずに答えられず、その話を聞いた私が、後からご家族に電話で状況の説明をすることになりました。

この出来事は、職場の話し合いでも多くの議論をして、もう一度自分自身を見つめ直すことにもなりました。排泄というデリケートな問題にもかかわらず、自宅に帰った後、説明なく汚れた下着を見たご家族の気持ち、そのやり取りを目の前で見たご利用者の気持ち、ましてや「初めて汚してしまった」ということに対する気持ち、を私は全く考えておらず、理解しようとすることができませんでした。ただ目の前の作業をこなすだけで、その先を考えることができなかったこの経験は、自分の中で大きな「ターニングポイント」となりました。私は、相手の気持ち、考え方や本心を聞くこと、ましてや排泄をするという行為や今後の不安なことなど、深い部分の話をどう聞き、どう返すのが良いのか、自分から見た相手のことばかり気にして、怖くて逃げていました。介護には自信があると思っていた私にとって、ご利用者やご家族に「真正面から向き合う」ことからは程遠かったこと、そして、その勇気がなかったことを認めることは、正直とても恥ずかしくてつらかったです。しかし、この経験を機に、「どうすればもっと心に寄り添えるのか」を日々考えるようになりました。

プロの介護士として

ひまわりで働いてきた1年半は、「身体介護」や「マニュアルに沿った業務」をこなすだけが介護の仕事だと思っていた私に、「考える」と「向き合う」との大切さを教えてくれました。日々の業務の中で、ただ目についたご利用者の介助に入っていた私ですが、今は全体の様子や、他職員の状況を見て、自分がどう動いたらいいか考えるようになり、介護士として一步前進したと実感しています。今の自分の意識が、有料老人ホームで働いていた時に持てていたら、「きっと違った介護ができていた」という思いもあります。私の知らないところで、きっと別の誰かが、その部分を代わりにやってくれていたのだろうと、今ならわかります。

今の私は介護の業界に入って一番燃えています！専門的な介護の知識や技術など、覚えることはたくさんありますが、まずは「考えて動けるようになっている」ことを成長の第一歩と考え、今後は胸を張って「プロの介護士です！」と言えるように、これからも頑張っていきたい思います。

ふれあいセンター協同
ティサービスセンターひまわり ふれあいセンター協同2階
安佐南区西原九丁目8-22 電話：874-4085 FAX：874-4093 管理者：鬼塚
●写真の掲載につきましてはご利用者様・ご家族様の了解を頂いています。
昼食付無料体験利用実施中！！☆お気軽にお問合せください☆